

コロナ禍から急回復中！

外食で「昼飲み」をしていた／している人は39.8%、今後したい人は35.7%

「和食料理店」「中華料理店」「レストラン、洋食店等」が昼酒場“御三家”

「昼飲み」についての調査（2023年7月実施）

株式会社リクルート（本社：東京都千代田区、代表取締役社長：北村 吉弘、以下リクルート）の外食市場に関する調査・研究機関『ホットペッパーグルメ外食総研』（<https://www.hotpepper.jp/ggs/>）は、首都圏・関西圏・東海圏での「昼飲み」についてアンケートを実施しました。その結果を発表いたします。

<要約>

POINT1 外食で「昼飲みをしていた／している」人は39.8%。

外食での本格的な「昼飲み」実施率はコロナ禍前の水準に戻りつつある・・・P3-4

▶外食で「昼飲みをしていた／している」人は39.8%。60代男性が最も割合が高く50.0%。圏域別では、首都圏での割合が高く42.9%、東海圏は割合が低く30.3%。

▶外食での昼の「本格的な飲酒」について、平日の実施率はコロナ禍前が17.8%、コロナ禍中が13.9%、コロナ禍後の現在が16.3%。休日では、コロナ禍前が27.6%、コロナ禍中が20.7%、コロナ禍後の現在が24.9%。平日、休日とも、コロナ禍中は実施率が下がっていたが、現在はコロナ禍前に近い水準まで回復を見せている。

POINT2 「昼飲み」したお店トップ3は「和食料理店」「中華料理店」「レストラン、洋食店等」。

人気アルコールトップ3は夜と同じ「ビール」「ワイン」「酎ハイ」・・・P4-6

▶「昼飲み」で、これまでに「利用したことがあるお店」の1位は「和食料理店」（38.6%）、「中華料理店」（36.4%）、「レストラン、食堂、ダイニング、洋食店」（34.9%）で、今後「利用したいお店」の1位は「和食料理店」（34.8%）、「居酒屋」（32.8%）、「中華料理店」（31.3%）となっている。

▶外食でよく飲むアルコール、昼夜とも1位は「ビール」（夜70.8%、昼68.2%）、2位「ワイン」（夜32.3%、昼25.3%）、3位「酎ハイ」（夜32.1%、昼22.2%）。

POINT3 今後、外食で「昼飲み」がしたい人の割合は35.7%。外食で「昼飲み」したい理由は、

「リラックスできる、気分転換になる」が51.4%・・・P7-8

▶今後、外食で「昼飲みをしたい」と回答した人は35.7%。60代男性（42.1%）と30代男性（42.0%）は特に積極的。圏域別では、外食で「昼飲み」の実施経験と同様に首都圏（38.7%）で割合が高い。

▶外食で「昼飲み」をしたい人の理由トップ3は、1位「リラックスできる、気分転換になる」（51.4%）、2位「お酒を飲むことが好き」（35.9%）、3位「昼のほうが贅沢感、非日常感がある」（31.2%）。50・60代男性では「お酒を飲むことが好き」、20・30代女性では「昼のほうが贅沢感、非日常感がある」、60代男女では「食事の味がひきたつ」の割合が、他の性年代より高かった。

本件に関する
お問い合わせ先

<https://www.recruit.co.jp/support/form/>

調査概要と回答者プロフィール

- ◎調査名 外食市場調査（2023年6月度）
- ◎調査方法 インターネットによる調査

首都圏、関西圏、東海圏における、夕方以降の外食および中食のマーケット規模を把握することを目的に実施した調査（外食市場調査）の中で、外食での「昼飲み」について、コロナ禍前後の状況、「昼飲み」をする理由、「昼飲み」をするお店の業態、「昼飲み」でよく飲むお酒の種類などについて聴取。

- ◎調査対象 首都圏（東京都、神奈川県、埼玉県、千葉県、茨城県）、関西圏（大阪府、京都府、兵庫県、奈良県、滋賀県）、東海圏（愛知県、岐阜県、三重県）に住む20～69歳の男女（株式会社マクロミルの登録モニター）

■事前調査

- ①調査目的 本調査の協力者を募集するために実施
- ②調査時期 2023年5月19日（金）～2023年6月2日（金）
- ③調査対象 首都圏、関西圏、東海圏に住む20～69歳の男女（株式会社マクロミルの登録モニター）
- ④調査内容 本調査への協力意向、普段の外食頻度、普段の中食頻度
- ⑤配信数 495,060 件
- ⑥回収数 33,578 件
- ⑦本調査対象者数 13,114 件

- ◆本調査対象者の割付について
 - ・本調査では、回答者の偏りをできるだけなくすために、割付を行って回収した。
 - ・性年代別10区分×地域別25区分（首都圏地域13区分、関西圏地域8区分、東海圏地域4区分）＝250セルについて、令和3年人口推計（総務省）に基づき割付を行った。
 - ・本調査の目標回収数は、首都圏4,000s、関西圏2,000 s、東海圏2,000 s、合計8,000 sとした。

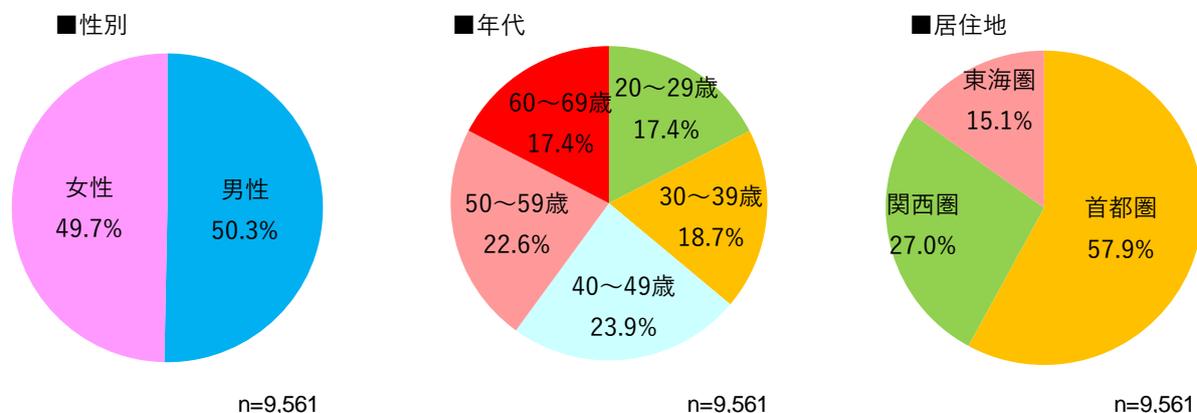
■本調査

- ①調査方法 事前調査で本調査への協力意向が得られたモニターの中から、脱落率を加味して設定した必要数をランダムに抽出し、本調査の案内メールを通知。
- ②調査期間 2023年6月30日（金）～2023年7月10日（月）
- ③配信数 12,559 件
- ④回収数 9,654 件 （回収率 76.9 %）
- ⑤有効回答数 9,561 件 （首都圏 4,792 件、関西圏 2,512 件、東海圏 2,257 件）

※回収された票のうち、自由回答コメントから、趣旨に合わないと思われる票を無効としたほか、事前調査時の普段の外食・中食頻度の回答と、本調査時の1カ月間の外食・中食回数が著しく乖離している場合、事前調査時の住所と、本調査時の住所が、圏域を越えて変わっている場合を無効とした。

- ◆集計方法について
 - ・本調査結果は、令和3年人口推計（総務省）における割付（性年代別10区分×地域別25区分＝250セル）別の構成比に合わせてサンプル数を補正したウェイトバック集計を行っている。
 - ・補正後のサンプル数は次の通り。
3圏域・計 9,561 件（首都圏 5,539 件、関西圏 2,579 件、東海圏 1,443 件）

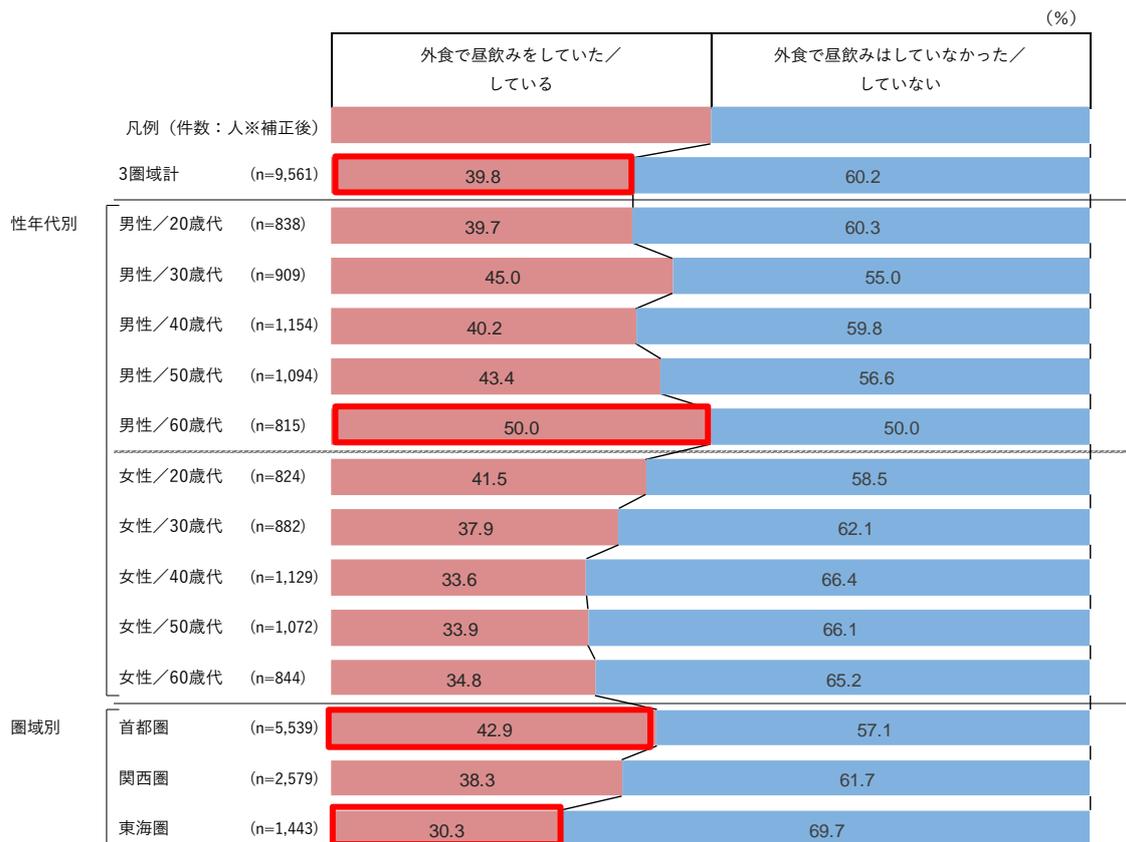
◆回答者プロフィール（ウェイトバック後）



1. 外食で「昼飲みをしていた／している」人は 39.8%。首都圏は割合が高く、東海圏では低い

新型コロナウイルス感染症がはやる以前から、定年退職者の増加等を背景に注目されていた「昼飲み」。コロナ禍から飲食市場が回復しつつある中で、外食での「昼飲み」の回復状況や今後の意向等を調査した。まずは、これまでに「昼飲み」をしたことがある人の割合を、いくつかの設問の回答の組み合わせから分析した結果、全体では 39.8%が「昼飲みをしていた／している」となった。性年代別では、60 代男性が最も割合が高く、50.0%であった。また、圏域別では、首都圏での割合が高く 42.9%、東海圏は割合が低く 30.3%となっている。

外食で「昼飲み」をしていたか／しているか（全体／単一回答）



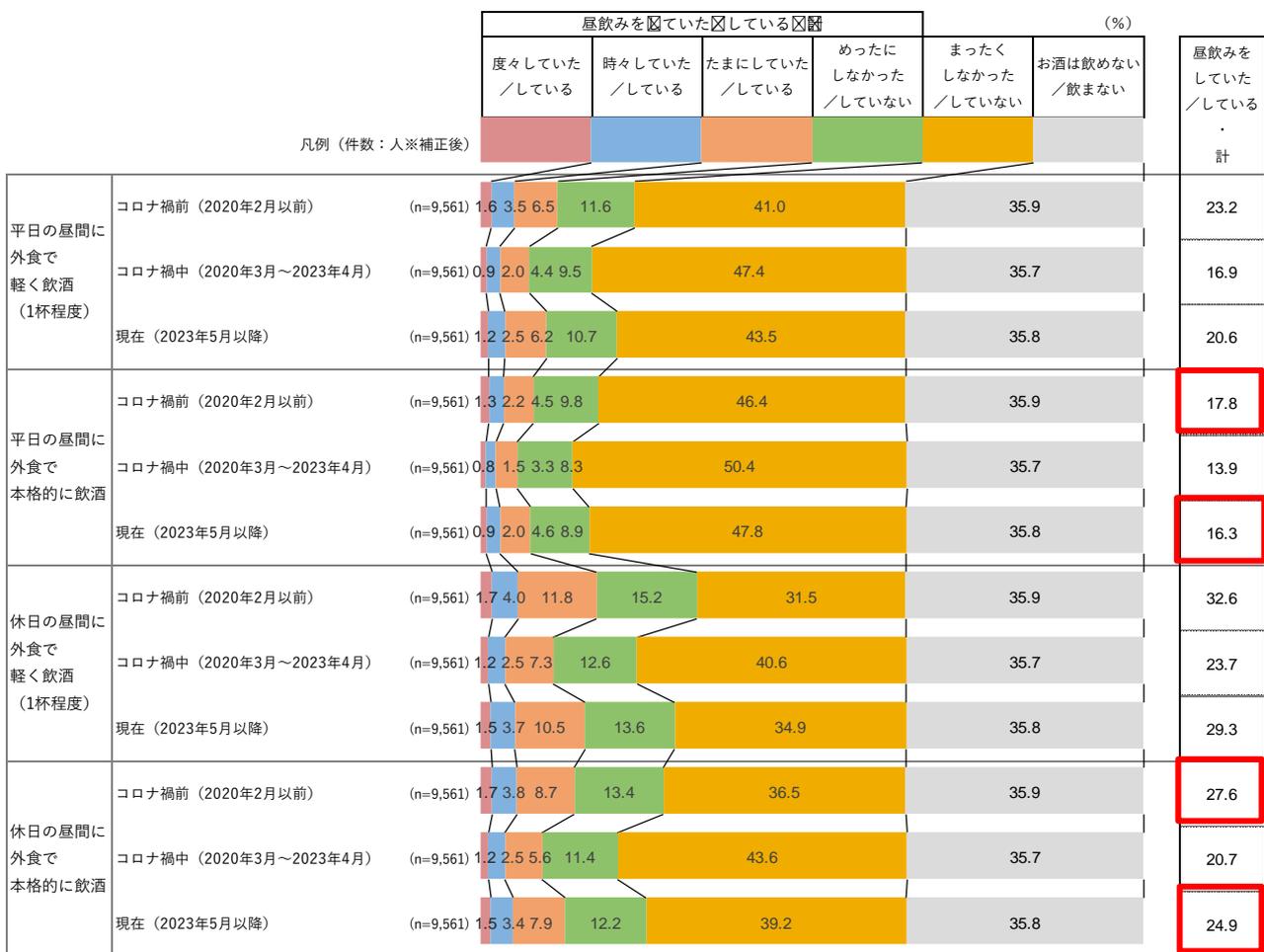
※「外食で昼飲みをしていた／している」：コロナ禍前（2020年2月以前）、コロナ禍中（2020年3月～2023年4月）、現在（2023年5月以降）それぞれの時期のいずれかで、外食で「昼飲み」をしていた／していると回答した人を集計

※「お酒は飲めない／飲まない」：コロナ禍前（2020年2月以前）、コロナ禍中（2020年3月～2023年4月）、現在（2023年5月以降）それぞれの時期のいずれかで「お酒は飲めない／飲まない」と回答しており、同じ時期で他の回答をしている場合は全て「お酒は飲めない／飲まない」に付け替えを行っている。

2. コロナ後に急回復中。外食での本格的な「昼飲み」実施率は平日 16.3%、休日 24.9%

外食での「昼飲み」の量と時期を尋ねた結果、「本格的な飲酒」の場合、平日の昼間の実施率はコロナ禍前が 17.8%、コロナ禍中が 13.9%、コロナ禍後の現在が 16.3%。休日の昼間では、コロナ禍前が 27.6%、コロナ禍中が 20.7%、コロナ禍後の現在が 24.9%。平日、休日とも、コロナ禍中は実施率が下がっていたが、現在はコロナ禍前に近い水準まで回復を見せている。弊社から毎月実施している夕方以降の外食市場調査における飲酒機会を調べると、コロナ禍前の 2019 年比で、コロナ禍後は 7~8 割程度まで回復しており、「昼飲み」においてもコロナ禍前に近く回復してきていることがわかった。

コロナ禍前（2020年2月以前）、コロナ禍中（2020年3月～2023年4月）、現在（2023年5月以降）それぞれの時期に、外食で「昼飲み」をしていたか（全体／それぞれ単一回答）



※「お酒は飲めない／飲まない」：コロナ禍前（2020年2月以前）、コロナ禍中（2020年3月～2023年4月）、現在（2023年5月以降）それぞれの時期のいずれかで「お酒は飲めない／飲まない」と回答しており、同じ時期で他の回答をしている場合は全て「お酒は飲めない／飲まない」に付け替えを行っている。

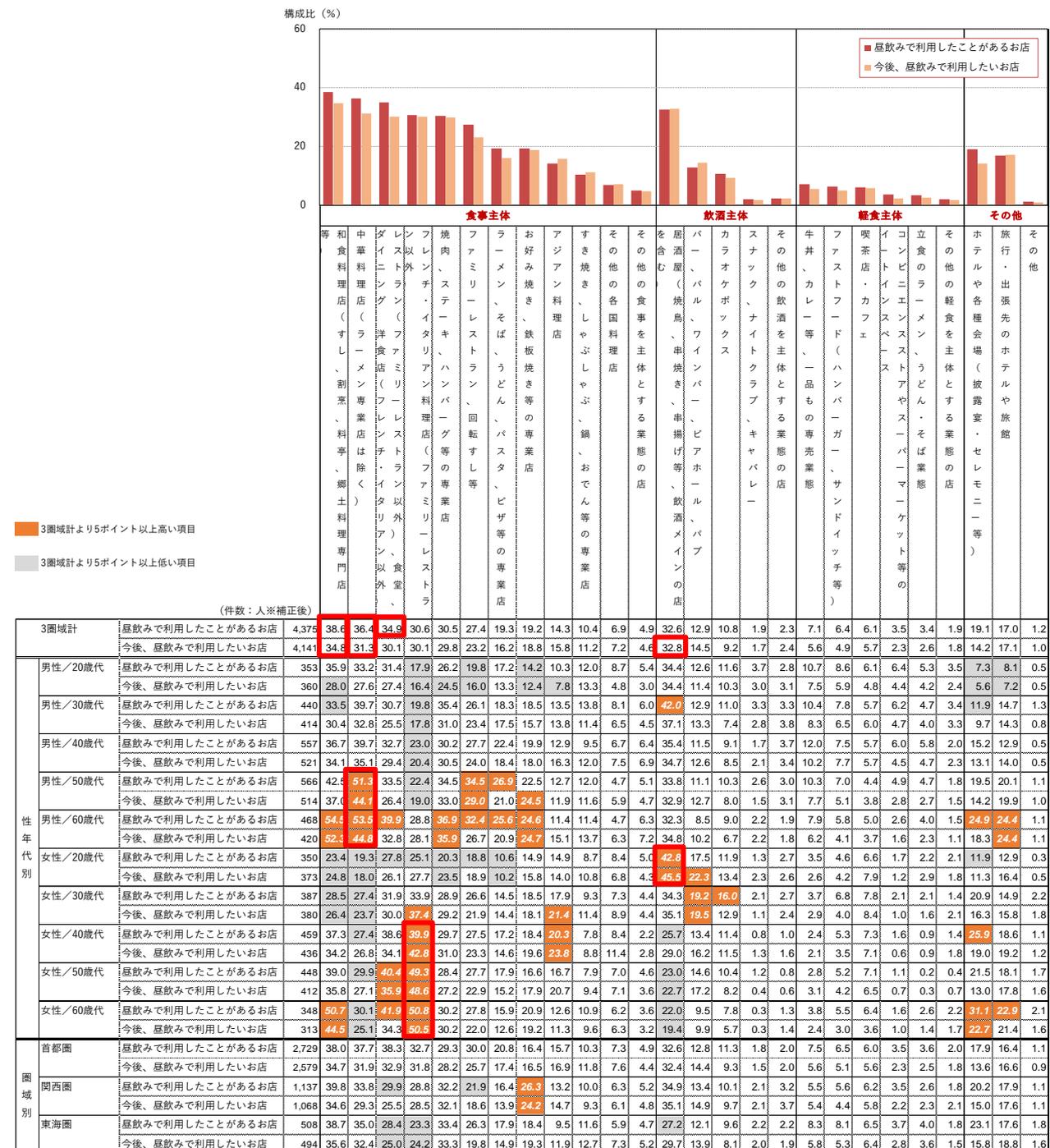
3. 「昼飲み」したことのあるお店トップ3は「和食料理店」「中華料理店」「レストラン、洋食店等」

「昼飲み」で「利用したことがある・今後利用したい」お店のジャンルを尋ねた結果、どのジャンルでも、これまでに「利用したことがあるお店」（図の赤の棒グラフ）と今後「利用したいお店」（図のオレンジの棒グラフ）として選択される割合に、大差はなかった。これまでに「利用したことがあるお店」の1位は

「和食料理店」(38.6%)、「中華料理店」(36.4%)、「レストラン、食堂、ダイニング、洋食店」(34.9%)で、今後「利用したいお店」の1位は「和食料理店」(34.8%)、「居酒屋」(32.8%)、「中華料理店」(31.3%)となっている。これまでに「利用したことがあるお店」では飲酒主体業態ではなく、食事主体業態がトップ3を占めた。性年代別では、50・60代男性で「中華料理店」、40~60代女性で「フレンチ・イタリアン料理店」、20代女性で「居酒屋」の割合が、これまでに「利用したことがあるお店」でも、今後「利用したいお店」でも、他の性年代に比べ高くなっている。

これまでに昼飲みで利用したことがある・今後利用したいお店のジャンル

(これまでに外食で昼飲みをしたことがある方・今後外食で昼飲みをしたい方/それぞれ複数回答)

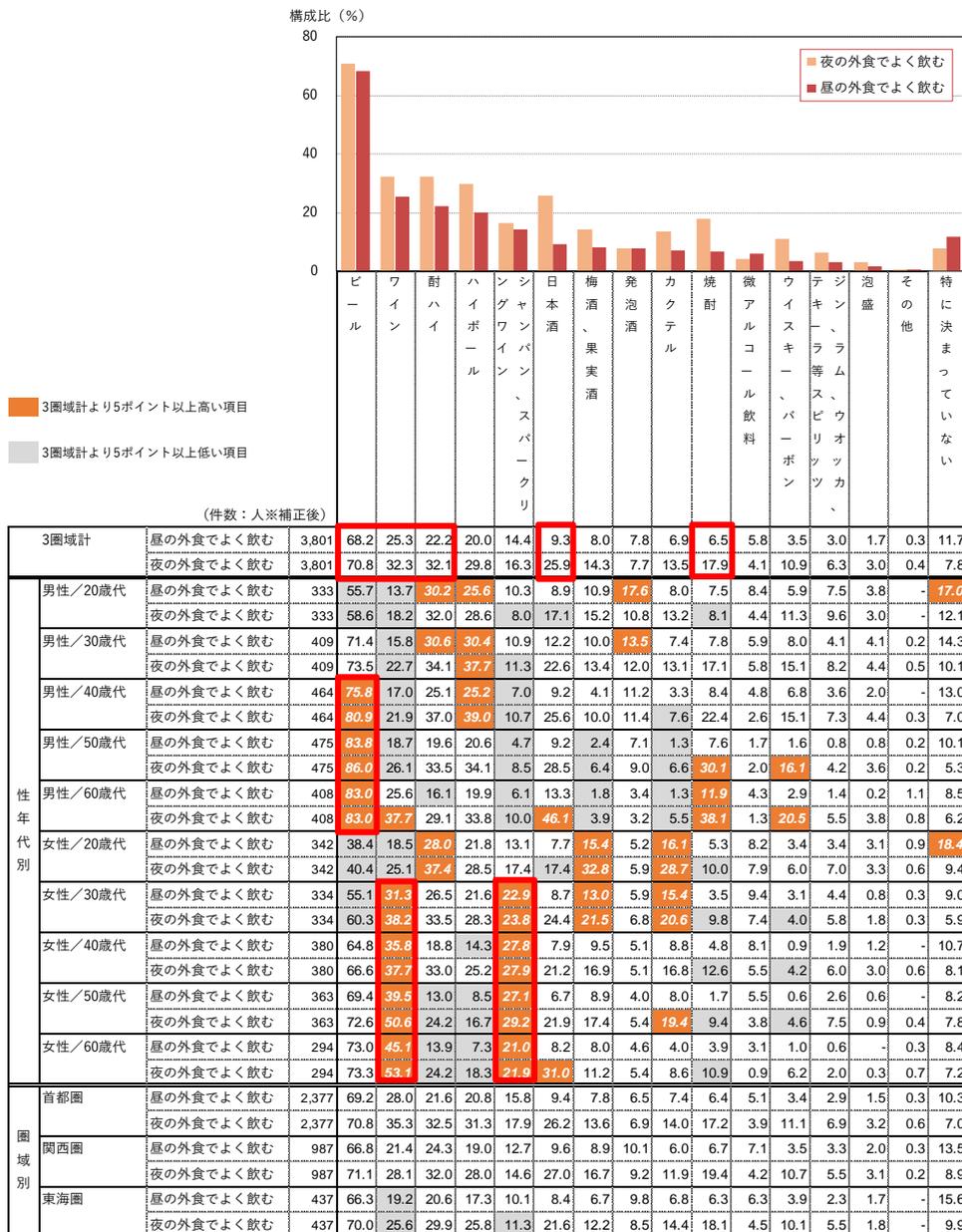


※「3圏域計」の「昼飲みで利用したことがあるお店」が多い順にソート

4. 人気アルコールトップ3は夜と同じ「ビール」「ワイン」「酎ハイ」。「日本酒」「焼酎」は昼夜差も

「昼飲み」をしていた・している人にどんな種類のお酒を飲むかを尋ねた。「夜の外出でよく飲む」お酒（図のオレンジの棒グラフ）が、「昼の外出でよく飲む」お酒（図の赤の棒グラフ）と一致するかに注目すると、よく飲むお酒のトップ3は昼夜とも、1位は「ビール」（夜70.8%、昼68.2%）、2位「ワイン」（夜32.3%、昼25.3%）、3位「酎ハイ」（夜32.1%、昼22.2%）であった。一方、4位以下の順位は昼夜で必ずしも一致せず、特に「日本酒」（夜25.9%、昼9.3%）や「焼酎」（夜17.9%、昼6.5%）では、昼夜で割合の差が大きい。性年代別では、40～60代男性では「ビール」、30～60代女性では「ワイン」「シャンパン、スパークリングワイン」の割合が、昼夜ともに他の性年代に比べて高かった。

夜の外出、昼の外出、それぞれでよく飲むお酒の種類 （外食で昼飲みをしていた・している方／それぞれ複数回答）

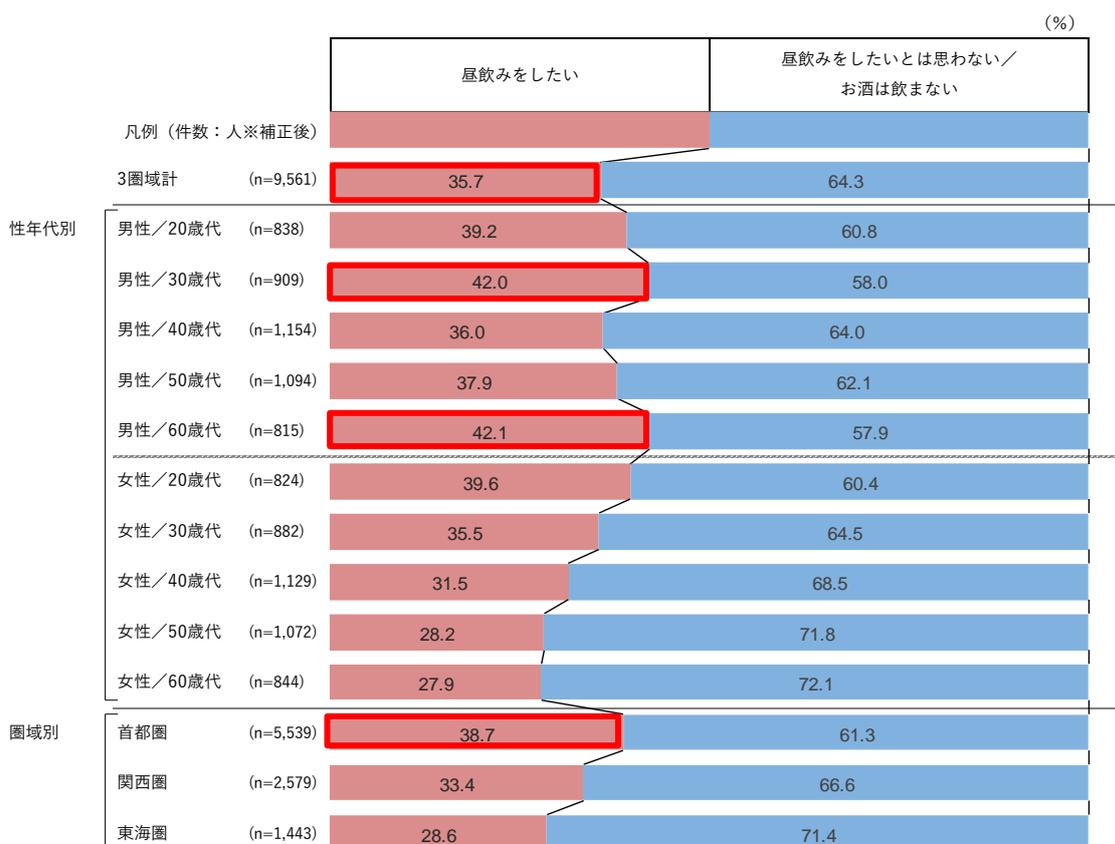


※「3圏域計」の「昼の外出でよく飲む」が多い順にソート

5. 今後、外食で「昼飲み」がしたい人の割合は 35.7%。実施率同様に首都圏で高い実施意向

今後、外食で「昼飲み」をしたいかについて、いくつかの設問の回答を組合せて集計した。何らかの理由で今後、外食で「昼飲みをしたい」と回答した割合は 35.7%。世の中の 3 分の 1 強の人は今後の「昼飲み」について、意向があることがわかった。性年代別で積極的なのは、60 代男性（42.1%）と 30 代男性（42.0%）であった。圏域別では、外食で「昼飲み」の実施経験と同様に、首都圏（38.7%）で割合が高い傾向だ。

今後、外食で昼飲みをしたいと思うか（全体／単一回答）



※「昼飲みをしたい」：「昼飲みをしたい理由」のいずれかに回答した人を集計

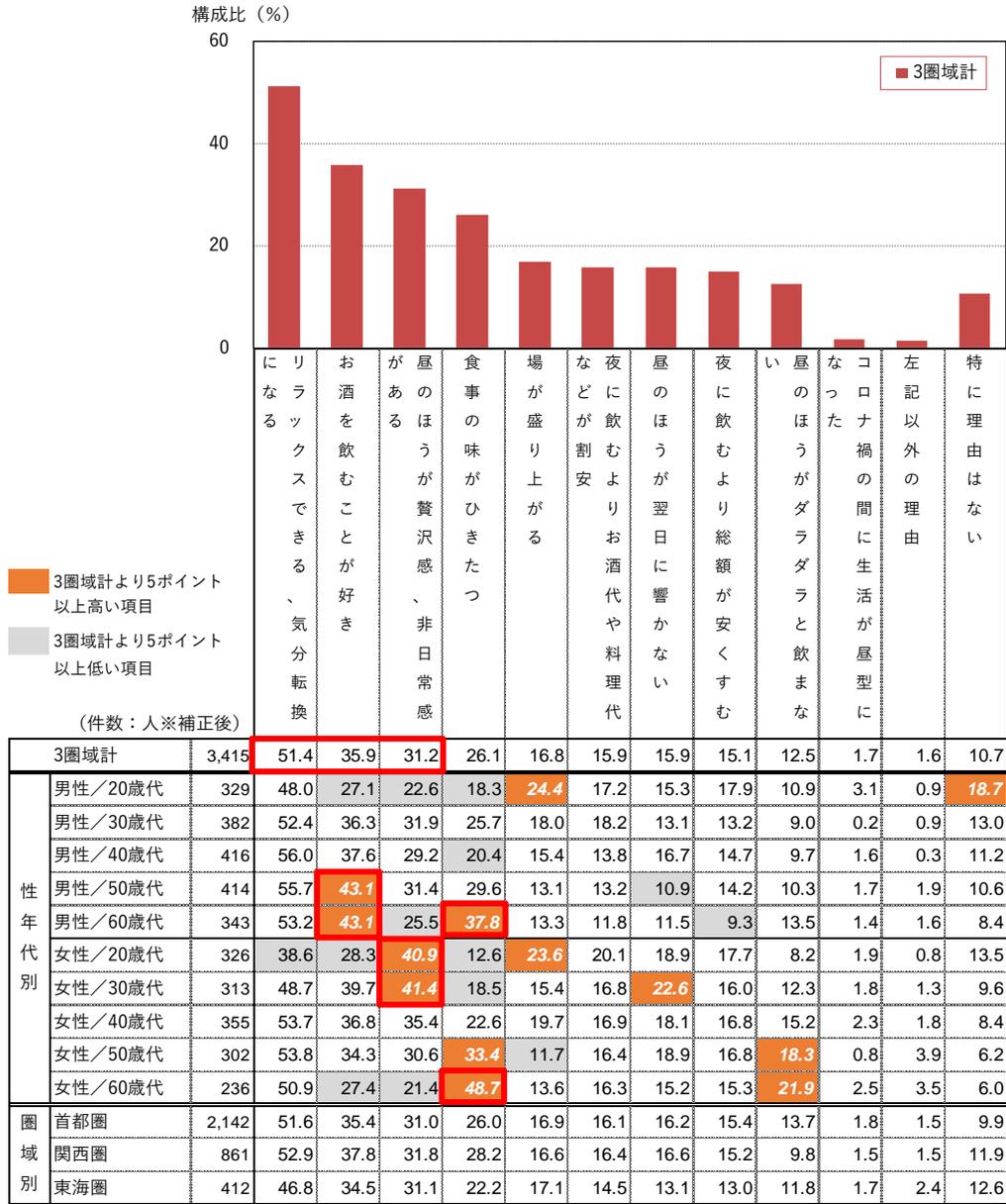
※「昼飲みをしたいとは思わない／お酒は飲まない」：「お酒は飲めない／飲まない」「昼飲みはしたいと思わない」のいずれかに回答した人を集計

6. 外食で「昼飲み」したい理由は「リラックスできる、気分転換になる」が 51.4%

今後、外食で「昼飲み」をしたい人にその理由を尋ねた。トップ3は、1位が「リラックスできる、気分転換になる」（51.4%）、2位が「お酒を飲むことが好き」（35.9%）、3位が「昼のほうが贅沢感、非日常感がある」（31.2%）。性年代別では、50・60代男性では「お酒を飲むことが好き」、20・30代女性では「昼のほうが贅沢感、非日常感がある」、60代男女では「食事の味がひきたつ」の割合が、他の性年代より高かった。

今後、外食で「昼飲み」をしたいと思う理由

（「昼飲みをしたい理由」のいずれかに回答した人／複数回答）



※「3圏域計」の多い順にソート

リクルートグループについて

1960年の創業以来、リクルートグループは、就職・結婚・進学・住宅・自動車・旅行・飲食・美容などの領域において、一人ひとりのライフスタイルに応じたより最適な選択肢を提供してきました。現在、HRテクノロジー、マッチング&ソリューション、人材派遣の3事業を軸に、60を超える国・地域で事業を展開しています。リクルートグループは、新しい価値の創造を通じ、社会からの期待に応え、一人ひとりが輝く豊かな世界の実現に向けて、より多くの『まだ、ここにはない、出会い。』を提供していきます。

詳しくはこちらをご覧ください。

リクルートグループ：<https://recruit-holdings.com/ja/> リクルート：<https://www.recruit.co.jp/>